

ミセス・ワタナベという人を知っているだろうか。特定の人を指しているのではなく、外国為替証拠金(FX)取引を行う日本の個人投資家のことをそう呼ぶことがある。ワタナベという名前が、欧米から見ればよく聞く日本人の名前であったことからそうした名称がつけられたのだろう。一人一人は顔の見えない個人だが、総額でみるとかなり大きな規模のドル売りやドル買いなどを行って、円ドルレートの変動から利益を上げようとする。

昨年の3月から、円ドルレートは大きく変動した。3月時点では110円台だったものが10月には150円の大台に乗り、それから年始にかけて2カ月で130円を切る所まで円高に戻った。大きな変動であるので、多くの投資家が市場に参入した。ミセス・ワタナベも積極的に投資に参じたようだ。

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

## 論壇

ミセス・ワタナベの行動はもちろん、一人一人違つて当然だが、総じて同じような動きをする傾向が強いようだ。昨年の動きでいえば、150円まで円安に動く時期にはドル買いを仕かけた人が多く、結果的には利益をあげた人が多かったようだ。ただ、10月以降の円高への反転の時期には、ドル売りを続けていた投資家も多く、全体的には損失を被った

### 資産運用のグローバル化

人も多い。

ミセス・ワタナベの投資行動のパターンは、プロの投資家とは異なることがあるようだ。だから、ミセス・ワタナベという総称がつけられる。一般的に、マスコミ報道などを通じた世の中の議論に引っ張られる傾向が強いのもかもしれない。昨年10月までドル高(円安)方向にずっと

動いていた時、10月以降の円高への反転を指摘していた人は非常に少なかった。

個人が積極的にFX取引に参入することの是非についてここで議論するつもりはない。為替レートは基本的に先きの動きを予想することは不可能な存在であるので、FX取引はそれ自体はゼロサムゲームである。損をすることも得をすることも

ある。競馬や宝くじと変わらない。

競馬や宝くじと違つるのは手数料などでとられる部分が少ないので、フェアナキャンブルであるということだ。

ただ、FXをキャンブルとだけ呼ぶのは正しくないのかもしれない。私たちの日常生活はグローバル化の中にあって、より広い観点から外

為投資を捉えるべきだろう。例えば、資産の全てを円建ての預金で持つていると、円の実力が下がっていけば、資産の価値の減少を余儀なくされる。資産の一部をドルなどに分けることは合理的な行動である。

また、金利の高いドル建て資産を一部保有する人も増えているだろう。そうした資産のリスクを減らすために、FX取引を利用するということもありうる。さらには、近い将来に外国旅行の計画があれば、あらかじめドルで資金を手当てするということもあるだろう。

いずれにしても、ミセス・ワタナベの投資額の規模をみると、日本人の資産運用にもグローバル化の波が及んでいることは確かだ。個別の取引のリスクは別としても、多くの人がそうした運用を通じてグローバルな視野を持つことは評価したい。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。